



## 7. 坂出港長期構想

### 7.1 坂出港が果たす役割

坂出港の現況や社会動向、要請を踏まえ、長期構想として坂出港が果たす役割を「物流・産業」「交流・賑わい」「安全・安心」の3つの柱で整理します。

#### (1) 【物流・産業】

- 背後に番の州工業地帯を有する四国屈指の工業港湾。外貨貨物と内貨貨物で高いシェアを占めており、県民の生活や産業にとって大きな役割を果たしています。
- 人口減少と高齢化の進行、労働基準の改正により、人手不足が顕在化しています。
- 全国的に、荷役・輸送の効率化のため「海上貨物のコンテナ化」が進行しています。
- グローバルサプライチェーンが進展する中、県内企業においても、アジア地域との関わりが大きくなっています。
- 貨物船、コンテナ船、自動車専用船など、船舶の大型化が進展しています。
- 2050年までに脱炭素社会を目指す政府が宣言している中、港湾において、カーボンニュートラルポートの形成が求められています。
- 技術の流出やコロナ禍におけるサプライチェーンの分断等の経験を背景として、国内に生産拠点を考える企業が増加傾向にあります。
- 香川県内の主な工場は、内陸部より沿岸部、とりわけ中讃地域に多く立地しています。
- 道路網の充実により、港へのアクセス機能が向上しています。
- 喫水調整、老朽化、滞船による利便性の低下が課題となっています。

「背後企業の成長を支え、競争力・利便性の高い港」を目指します。



## (2) 【交流・賑わい】

- 香川県は、ニューヨークタイムズ(米国)が選んだ「2019 年に行くべき 52 ケ所の旅行先」として、「瀬戸内の島々」が日本で唯一選ばれたほか、旅行予約サイト世界大手のブッキングドットコム(オランダ)が発表した「2020 年に訪れるべき目的地 10 選」にも、高松市が国内で唯一選ばれるなど、世界からの注目が高まっている地域となっており、外国人延べ宿泊者数も大きく伸ばしています。
- 「瀬戸内国際芸術祭」が平成 22 年から 3 年に一度開催されており、坂出港では、番の州地区にある沙弥島で賑わいを見せています。
- 番の州地区には、瀬戸大橋記念公園、東山魁夷せとうち美術館をはじめとする賑わい拠点が多く点在しています。
- 西運河地区は、かつて岡山県や島々との定期連絡船が運航し、運河に直結する形で商店街が形成されるなど大いに賑わっていましたが、現在は、遊覧船乗り場や小型船の係留など、かつての賑わいが限定的なものとなっています。
- 西運河地区にほど近い緩衝緑地では、賑わい創出空間として「まるっこパーク」が令和 3 年 4 月に開設されました。
- 坂出港では、林田地区の貨物船併用岸壁において、年に 1 回程度、国内クルーズ客船が寄港しています。オプションツアーの行き先としては、坂出市外の観光地が大部分を占めており、市内観光への誘導が課題となっています。

「市民が集い、観光客を呼び込む魅力ある港」を目指します。



## (3) 【安全・安心】

- 港湾は、国民生活と産業活動を支える重要な物流・生産基盤であり、また、背後には多くの人口・資産が集積しているため、高潮、津波等の災害から、人命・財産を直接防護する港湾海岸施設の役割は非常に重要です。
- 南海トラフを震源とする地震におけるマグニチュード 8～9クラスの地震の発生確率は、今後30年以内に70～80%程度とされており、その際の香川県内の震度は5強～7になると予想されています。
- 地球温暖化は、長期的に海面水位の上昇とともに熱帯低気圧の強度の増大をもたらすと予測されており、将来の高潮による浸水被害に大きな影響を与えるとともに、激甚化・頻発化する可能性があります。
- 過去の大規模災害においても、海上輸送は様々な領域で活躍しています。
- 県内企業においても、アジア地域など諸外国との関わりが大きくなっており、災害などでサプライチェーンが分断した際の影響が懸念されます。
- 港湾管理者の財政状況が厳しい中、社会経済活動の基盤であるインフラは、高度成長期に整備したものが一斉に老朽化することが見込まれています。
- 坂出港の背後地には、エネルギー関連企業が集積しています。
- 四国の広域的な海上輸送の継続計画(広域海上BCP)において、四国のエネルギー拠点として位置づけられています。

「災害時の市民生活や企業活動を支える港」を目指します。



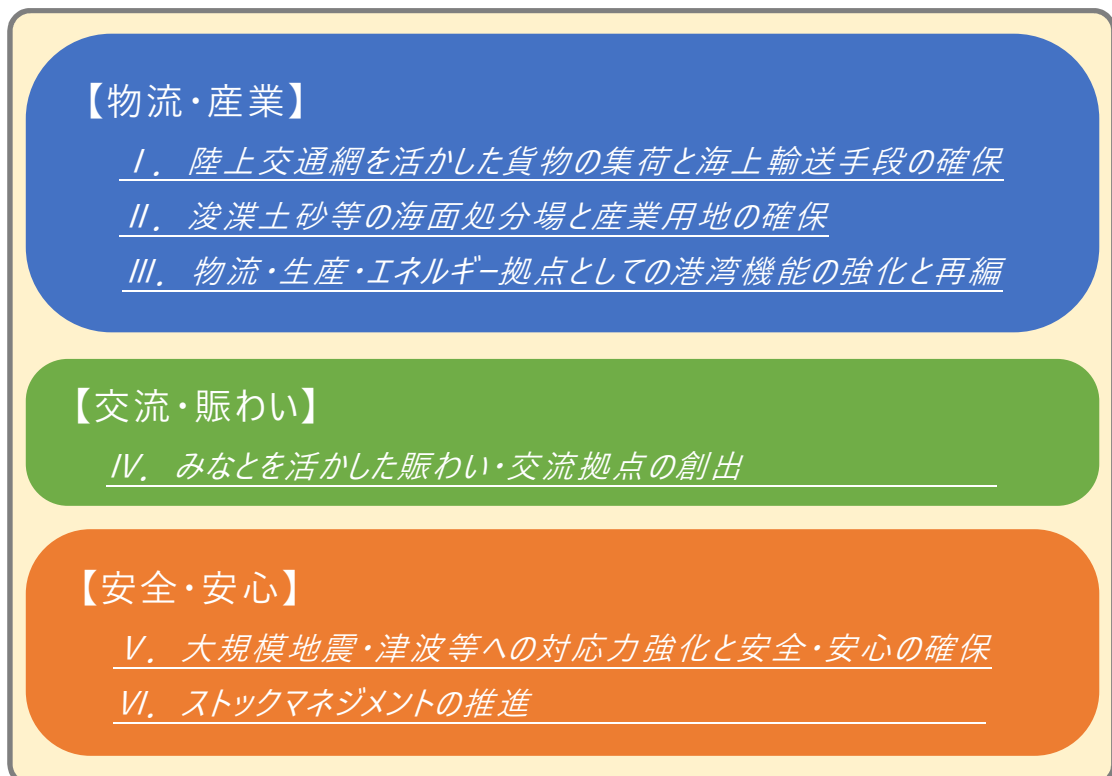
## 7.2 坂出港が目指すべき方向性

坂出港が果たす役割の実現に向け、目指すべき方向性を定め、取り組みを進めます。

### ○坂出港が果たす役割



### ○目指すべき方向性



## 7.3 坂出港を取りまく状況の整理

## (1) 現況と社会動向の整理

坂出港長期構想の実現に向けた取組みを抽出するにあたり、坂出港の現況と社会動向を物流・産業面、交流・賑わい面、安全・安心面のそれぞれにおいて、内的・外的要因と港湾活動へのプラス・マイナス要因として整理したものを以下に示します。

## 1) 物流・産業面

	港湾活動へのプラス要因	港湾活動へのマイナス要因
内的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂出港内は静穏度が高く、他の船舶の輻輳が少ない</li> <li>・関東方面との定期RORO船航路（上り）が就航</li> <li>・前面海域の水深が深い</li> <li>・四国の完成自動車の約7割、麦輸入の全てを取り扱う</li> <li>・背後に番の州工業地帯を有する四国屈指の工業港湾</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東方面からの定期RORO船航路（下り）が無い</li> <li>・コンテナターミナルがない</li> <li>・県内の海面処分場での受入れは概ね終了</li> <li>・林田地区では、利用状況により自動車専用船の滞船が発生する中、バイオマス発電所の建設が予定されており、利用状況の一層の逼迫が懸念</li> <li>・林田地区、中央ふ頭地区では、岸壁水深不足のため、輸入船の喫水調整が必要</li> <li>・中央ふ頭地区では、施設が老朽化・陳腐化しているが、背後地が狭く原位置での更新・対策が困難</li> <li>・脱炭素化の取り組みの遅れ</li> <li>・港湾施設の老朽化</li> <li>・港湾管理者の財政状況の悪化</li> </ul>
外的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内企業とアジア諸国との経済関係の緊密化</li> <li>・海上貨物のコンテナ化</li> <li>・県内の主要な工場は中讃地域に集積</li> <li>・オンリーワン・ナンバーワン企業が県内に多数立地</li> <li>・エネルギー関連企業の集積</li> <li>・坂出市は高速交通網の要衝</li> <li>・モーダルシフトの機運の高まり</li> <li>・脱炭素社会に向けた取組み</li> <li>・道路交通網の充実（坂出北スマートインターチェンジ、さぬき浜街道の4車線化事業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の機能縮小・移転及び関連産業への影響</li> <li>・臨海部において産業用地が不足</li> <li>・対岸の水島港の存在</li> <li>・人口減少と労働力不足</li> <li>・船舶の大型化</li> </ul>

## 2) 交流・賑わい面

	港湾活動へのプラス要因	港湾活動へのマイナス要因
内的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・番の州地区には瀬戸大橋記念公園、東山魁夷せとうち美術館をはじめとする賑わい拠点が多数点在</li> <li>・市街地近傍にウォーターフロント開発が可能な運河が存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県沖の航路では、巨大船の夜間航行が禁止（東から入港の場合、高松港より滞在時間が2時間短い）</li> <li>・市街地近傍にある西運河地区の賑わいが限定的</li> <li>・クルーズ客船の寄港は年1回程度で、オプションツアーも市外が多い</li> <li>・交通モードの連携不足</li> <li>・港湾施設の老朽化</li> <li>・港湾管理者の財政状況の悪化</li> </ul>
外的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川を訪れる外国人観光客が急増</li> <li>・ニューヨークタイムズなど海外での高い評価</li> <li>・瀬戸大橋や瀬戸内海の島々等の観光資源</li> <li>・クルーズ客船のオプションツアーとして、市内を巡る産業・文化ツアーが採用</li> <li>・賑わい創出の場として緩衝緑地における「まるっこパーク」が開設</li> <li>・日本版Ma a Sによる瀬戸内海の海上交通オンデマンド化を見据えた港湾管理電子化実証実験を高松港で実施</li> <li>・瀬戸内国際芸術祭による賑わい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺港湾の積極的なクルーズ船誘致</li> <li>・観光需要の繁盛期と閑散期に必要な人員に差</li> <li>・人口減少と労働力不足</li> <li>・船舶の大型化</li> </ul>

## 3) 安全・安心面

	港湾活動へのプラス要因	港湾活動へのマイナス要因
内的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂出港BCPの策定及び訓練の実施</li> <li>・香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風水害や感染症等に対応した坂出港BCPの充実化が図られていない</li> <li>・港湾・海岸施設の老朽化</li> <li>・港湾管理者の財政状況の悪化</li> </ul>
外的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国の他地域と比較して、津波到達時間が遅く、津波高が小さい地理的環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後30年以内に70～80%の確率で発生すると予測されている南海トラフ地震</li> <li>・自然災害の激甚化・頻発化</li> <li>・産業におけるグローバルサプライチェーンの進展</li> <li>・人口減少と労働力不足</li> </ul>

## (2) 上位計画・関連計画

坂出港が目指すべき方向性と上位計画・関連計画における主な港湾関連施策を整理したものを以下に示します。

【物流・産業】	
I. 陸上交通網を活かした貨物の集荷と海上輸送手段の確保	
【計画名/市】 ・坂出市都市計画マスタープラン ・坂出ニューポートプラン	【計画内容】 ・港湾機能の強化、定期航路の誘致 ・新たな定期航路の誘致
II. 浚渫土砂等の海面処分場と産業用地の確保	
【計画名/県】 ・「みんなで作るせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～	【計画内容】 ・企業立地の促進と産業基盤の強化
【計画名/市】 ・坂出ニューポートプラン	・臨海部を有効活用した港湾空間の機能向上
III. 物流・生産・エネルギー拠点としての港湾機能の強化と再編	
【計画名/国】 ・港湾の中長期政策「PORT2030」 ・四国港湾ビジョン2040～「効・創・適」新しい港の様式～	【計画内容】 ・グローバルバリューチェーンを支える海上輸送網の構築 ・情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化 ・コンテナ船やバルク船等の大型化等に対応した港湾整備による物流効率化 ・港湾・物流活動のグリーン化～CO2排出源・吸収源対策～
【計画名/県】 ・「みんなで作るせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～ ・坂出都市計画区域マスタープラン	・デジタル技術を活用した地域課題の解決と産業の活性化 ・港湾物流における港湾施設の整備の推進 ・地球温暖化対策の推進
【計画名/市】 ・坂出ニューポートプラン	・物流・生産拠点としての更なる港湾の機能強化に向けたふ頭の再編 ・臨海部を有効活用した港湾空間の機能向上
【交流】	
IV. みなとを活かした賑わい・交流拠点の創出	
【計画名/国】 ・港湾の中長期政策「PORT2030」 ・四国港湾ビジョン2040～「効・創・適」新しい港の様式～	【計画内容】 ・情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化 ・バースウィンドウの予約管理システムの導入、システムとMaaSの連携促進
【計画名/県】 ・「みんなで作るせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～	・デジタル技術を活用した地域課題の解決と産業の活性化 ・行政のデジタル化の推進
【計画名/市】 ・坂出市まちづくり基本構想 ・坂出ニューポートプラン	・情報化の推進 ・坂出港が有する資源を活用した賑わい・交流拠点の創出
【安全・安心】	
V. 大規模地震・津波等への対応力強化と安全・安心の確保	
【計画名/国】 ・四国港湾ビジョン2040～「効・創・適」新しい港の様式～ ・四国圏広域地方計画	【計画内容】 ・ハード対策（耐震強化岸壁の整備等）とソフト対策（航路啓開等の体制強化） ・海岸保全施設の整備など地震・津波対策の推進
【計画名/県】 ・「みんなで作るせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～ ・香川県地域防災計画	・南海トラフ地震・津波対策の推進 ・「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に基づき、整備優先度の高い箇所から計画的に海岸保全施設の整備を行うよう努める。
【計画名/市】 ・坂出市まちづくり基本構想 ・坂出ニューポートプラン ・坂出市地域防災計画	・防災対策の強化・充実 ・四国の防災拠点港としての機能強化 ・「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に基づき、整備優先度の高い箇所から計画的に海岸保全施設の整備を行う必要がある。
VI. ストックマネジメントの推進	
【計画名/国】 ・四国圏広域地方計画	【計画内容】 ・急激に進むと考えられる社会インフラの老朽化対策を推進
【計画名/県】 ・「みんなで作るせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～	・公共土木施設の老朽化対策の推進
【計画名/市】 ・坂出市まちづくり基本構想 ・坂出ニューポートプラン	・防災対策の強化・充実 ・四国の防災拠点港としての機能強化

## 7.4 実現に向けた取組み

### (1) 物流・産業

#### 1) 陸上交通網を活かした貨物の集荷と海上輸送手段の確保

##### ① 定期 RORO 船航路の維持、拡充 (5. 高松港・坂出港の役割分担と連携関連)

深刻な人手不足に起因する労働生産性の向上と環境負荷低減の観点から、トラック輸送からのモーダルシフトが進展しています。

県土の中央部に位置する坂出市は、多くの工場が集積するほか、高規格幹線道路が交わる高速交通網の要衝であり、整備が進められている坂出北 IC のフルインター化や県道高松坂出線の4車線化の実現により、臨海部へのアクセス機能の更なる向上が見込まれ、海上輸送貨物を周辺地域から集荷するのに適した場所と言えます。

坂出港がモーダルシフトの受け皿として、企業の競争力を高める利便性の高い港となるため、「定期 RORO 船航路の維持、拡充」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)  
 (1) 海上物流基盤の強化  
 1) コンテナ物流の効率化に向けた対応

##### ①-1. 定期 RORO 船を利用する新たな荷主等の掘り起こし(実施中)

- 誘致した定期 RORO 船航路の安定的な維持・拡充を目指し、新たな荷主、運送事業者の掘り起こしに取り組みます。





## 11) 浚渫土砂等の海面処分場と産業用地の確保

## ① 海面処分場の設置と産業用地の確保

高度成長期、港湾整備により発生する浚渫土砂は、臨海部の埋立事業等に用いられ、産業誘致など、地域の発展に大きく寄与してきましたが、産業構造の転換や環境への配慮から埋立事業が減少しており、浚渫土砂処分場の確保が課題となっています。

一方、海外への技術流出防止や新興国の賃金上昇、コロナ禍で露見したサプライチェーンの脆弱性等の理由から、製造業の国内回帰の兆しも見られます。

安定した浚渫土砂処分場と企業立地の受け皿等を確保するため、「海面処分場の設置と産業用地の確保」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)  
 (3)臨港地区での産業用地の確保  
 1)産業用地確保に向けた対応

## ①-1. 中期的な海面処分場の設置と産業用地の確保

- 浚渫土砂等の処分場の安定確保と臨海部の土地需要に対応するため、計画的な海面処分場の設置による産業用地の確保に取り組みます。

## ①-2. 産業用地に対する交通機能強化（実施中）

- 産業用地の利便性向上に寄与する交通機能強化のため、坂出北 IC のフルインター化及び、県道高松坂出線の整備を促進します。

8 働きがいも  
経済成長も9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう11 住み続けられる  
まちづくりを12 つくる責任  
つかう責任

III) 物流・生産・エネルギー拠点としての港湾機能の強化と再編

① 大型船に対応した新たな大水深岸壁の確保とふ頭の再編  
(5. 高松港・坂出港の役割分担と連携関連)

大手製粉会社が工場を移転することで、小麦の輸入量の減少が見込まれますが、四国唯一の麦の輸入港としての地位を守りつつ、地域産業の活性化を図るため、効率的な物流拠点が求められています。しかしながら、現状の中央ふ頭地区では、大型穀物船の喫水調整や施設の老朽化、手狭な背後地など、多くの課題を抱えている状況です。

一方、林田地区では、岸壁利用が逼迫し滞船が発生している中、背後地へのバイオマス発電所の建設や RORO 船の定期航路就航が決まるなど、新たな岸壁利用の動きがあります。

喫水調整が必要な大型船舶、施設の老朽化、岸壁の過密利用等の諸問題に対応するため、「大型船に対応した新たな大水深岸壁の確保とふ頭の再編」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)
- (1) 海上物流基盤の強化
  - 3) 貨物船の大型化に向けた対応
  - 4) 坂出港における滞船と施設の老朽化への対応

①-1. 大水深岸壁の整備(埋立後)

- 船舶の大型化に対応するため、大水深岸壁の整備に取り組みます。

①-2. ふ頭の再編(大水深岸壁整備後)

- 背後企業と一体となった物流機能の強化・効率化を目指し、背後企業の事業計画と調和した、ふ頭の再編に取り組みます。



② 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化  
(5. 高松港・坂出港の役割分担と連携関連)

世界各国が脱炭素社会の実現に向け舵を切っており、我が国においても、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すと宣言しています。

カーボンニュートラルの実現には、電力部門の脱炭素化だけでなく、産業・民生・運輸部門といった需要サイドの徹底した省エネルギー化を進めるとともに、使用するエネルギーの脱炭素化（エネルギー転換）を進めることが重要であり、国際物流の結節点・産業拠点となる港湾においても、積極的な取り組みが求められています。

我が国の脱炭素社会の実現に貢献するため、「脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)  
(2)エネルギー拠点としての機能強化  
1)脱炭素社会の実現に向けた対応

②-1. 国や企業との連携によるエネルギー施策の促進

➤ 四国のエネルギー拠点として持続的な発展と、脱炭素社会の実現に貢献する坂出港を目指し、国や企業と連携したカーボンニュートラルポートの実現に向けた取組みを推進します。

■エネルギー関連企業の立地状況



○2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向け、エネルギー関連企業が多く立地する産業拠点である港湾は、水素・アンモニア等の次世代エネルギーの輸入を含め、二酸化炭素排出量削減の取組みを進める上で、重要な役割を果たすことが求められている。

■水素サプライチェーンの取組み

○川崎重工業(株)坂出工場では、水素活用社会に向けて、「つくる・はこぶ・ためる・つかう」の一連の水素サプライチェーンの構築に取り組んでいる。



■カーボンニュートラルの取組み

○坂出バイオマスパワー合同会社では、バイオマス発電による、再生可能エネルギーの開発を目指し、坂出港(林田地区)への発電所建設を計画している。

事業主	坂出バイオマスパワー合同会社	木質ペレット	パームヤシ殻(PKS)
発電所出力	74,950kW		
年間発電量	約5億kWh (一般家庭約15万世帯分の年間消費電力に相当)		
燃料	木質ペレット、パームヤシ殻(PKS)		
工事着工	2022年度(令和4年度) 予定		
稼働開始	2025年度(令和7年度) 予定		

出典: 坂出バイオマスパワー(同)資料



(2) 交流・賑わい

IV) みなとを活かした賑わい・交流拠点の創出

① 西運河地区の賑わい創出

西運河地区は、かつて岡山県や島々との定期航路が運航し、運河に直結する形で商店街が形成されるなど、大いに賑わっていました。現在の賑わい空間は市街地から離れた番の州地域にあり、市街地まで訪れる人が少なくなっており、かつての賑わいは限定的なものとなっています。

市街地近傍にある西運河地区にかつての賑わいを取り戻すため、「みなとを活かした賑わい・交流拠点の創出」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)  
 (2)みなとの賑わい創出  
 2)ウォーターフロントの賑わい創出に向けた対応

①-1. 既存施設の活用

- 港らしい風景を活かした賑わい創出に向け、倉庫など既存施設の活用に取り組みます。
- 近接する公共用地を活かした賑わい創出に向け、緩衝緑地との連携に取り組みます。

①-2. 既存岸壁でのクルーズ客船の受入れ(ふ頭再編後)

- 中央ふ頭地区の賑わい創出に向け、クルーズ客船の受入れに取り組みます。



## ② MaaSによるスムーズな瀬戸内船旅の実現

瀬戸内海は、美しい景観と自然の中で培われてきた文化や歴史とが融合する魅力的な地域であり、ニューヨークタイムズ(米国)においても高く評価されています。

こうした観光資産を生かして、観光客の県内滞留を促すためには、島嶼部も含めた「みなと」と「みなと」を結ぶネットワークを構築し、広域的な周遊性を高めることが必要であり、実現に向けて、観光客の利便性向上と継続的なサービス改善が求められています。

一方、人手不足で弾力的な労働力の調整が困難な状況の中、受入れ側が同程度のサービスを行うとしても、繁盛期と閑散期の体制が大きく異なるため、安定したサービスの提供に向けて業務の改善が必要です。

瀬戸内の自然と文化に触れる交流の「みなと」づくりを目指して、「MaaSによるスムーズな瀬戸内船旅の実現」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)  
 (2)みなとの賑わい創出  
 3)情報通信技術の活用による利便性の向上に向けた対応

### ②-1. 「MaaS」によるサービスの一元化と「DX」による業務の改善

- 棧橋管理の電子化など、民間企業による情報通信技術を活用した「利用者の利便性向上」と「管理者・事業者の業務効率化」に向けたシステムの開発に協力します。

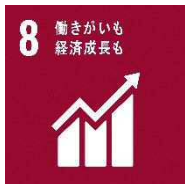
### ②-2. MaaS アプリによるデータ利活用基盤の構築とサービス改善

- 旅行者の移動の円滑化及び体験価値向上のため、MaaS アプリで収集したデータに基づく人流・滞在パターンの分析を行い、継続的なサービスの改善に取り組みます。

#### 【イメージ(事例)】



出典:瀬戸内海上都市ビジョン協議会 2019年度事業内容報告書を加工して作成



(3) 安全・安心

V) 大規模地震・津波等への対応力強化と安全・安心の確保

① 計画的な地震・津波対策等の実施

平成 16 年 8 月の台風 16 号による高潮被害を踏まえ、護岸や堤防などの防護施設の整備を計画的に進めるため「津波・高潮対策整備推進アクションプログラム」を平成 18 年 3 月に県が策定し、それを受けて整備を進めてきました。

平成 26 年 1 月、文部科学省地震調査委員会から「南海トラフにおけるマグニチュード 8～9 クラスの地震の発生確率は、今後 30 年以内に 70%程度」との予測が公表されたことから、県が従来対策の再検討を行い、平成 27 年 3 月「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に移行したことを受け、当該計画に沿って整備を進めています。

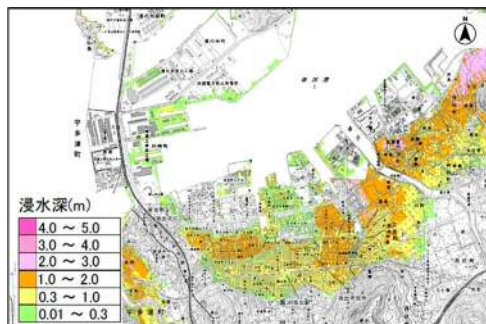
沿岸地域における市民の安全・安心の確保に向け、計画的な「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」の推進を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)  
 (1)大規模災害への対応力強化  
 1)大規模地震・津波、高潮等への対応

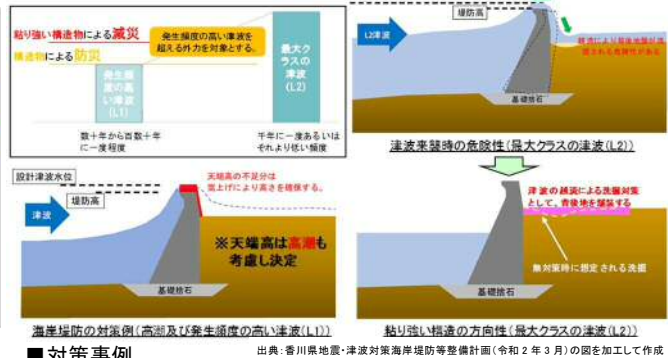
① - 1. 香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画の推進(実施中)

- 高潮、地震津波に備えて、計画的な地震・津波対策等の実施に取り組みます。

■被害想定事例



■対策方法の考え方



■対策事例



## ② 坂出港 BCP の充実

製造業等の国際分業化が進む中、サプライチェーンの寸断は我が国のみならず世界的に影響を及ぼす状況となっています。サプライチェーンの核となる港湾は、直接利用する企業のみならず地域全体の経済・産業を支えており、様々な災害に対して、港湾機能が維持されることが求められています。

様々な災害に対応し、港湾の重要機能が最低限維持できるよう、「坂出港 BCP の充実」を図ります。

### 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)

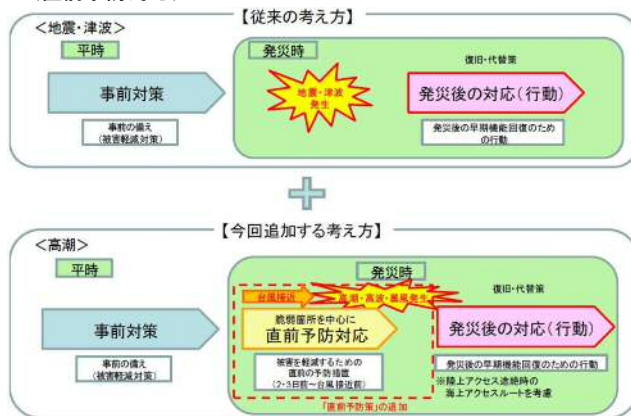
- (1)大規模災害への対応力強化
- 2)港湾 BCP に基づく防災体制構築への対応

### ②-1. 坂出港 BCP の充実

- 「港湾の事業継続計画策定ガイドライン」の改訂版に基づき、坂出港 BCP の充実に取り組みます。

#### 「港湾の事業継続計画策定ガイドライン」の主な改訂内容

##### ■台風等による高潮・高波・暴風等への対応を位置づけ(直前予防対応)



出典：国土交通省資料を加工して作成

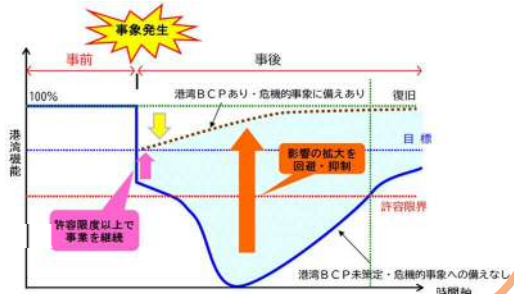
##### ■船舶側の視点からの津波対応を位置づけ

- ①沖合退避の迅速化
- ②係留避泊の安全性向上
- ③船の衝突・乗揚げの抑制



船舶の岸壁への乗揚げが発生(仙台塩釜港)

##### ■感染症への対応を位置づけ(感染症BCPの概念)



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を



VI) スtockマネジメントの推進

① 計画的な点検、補修の実施

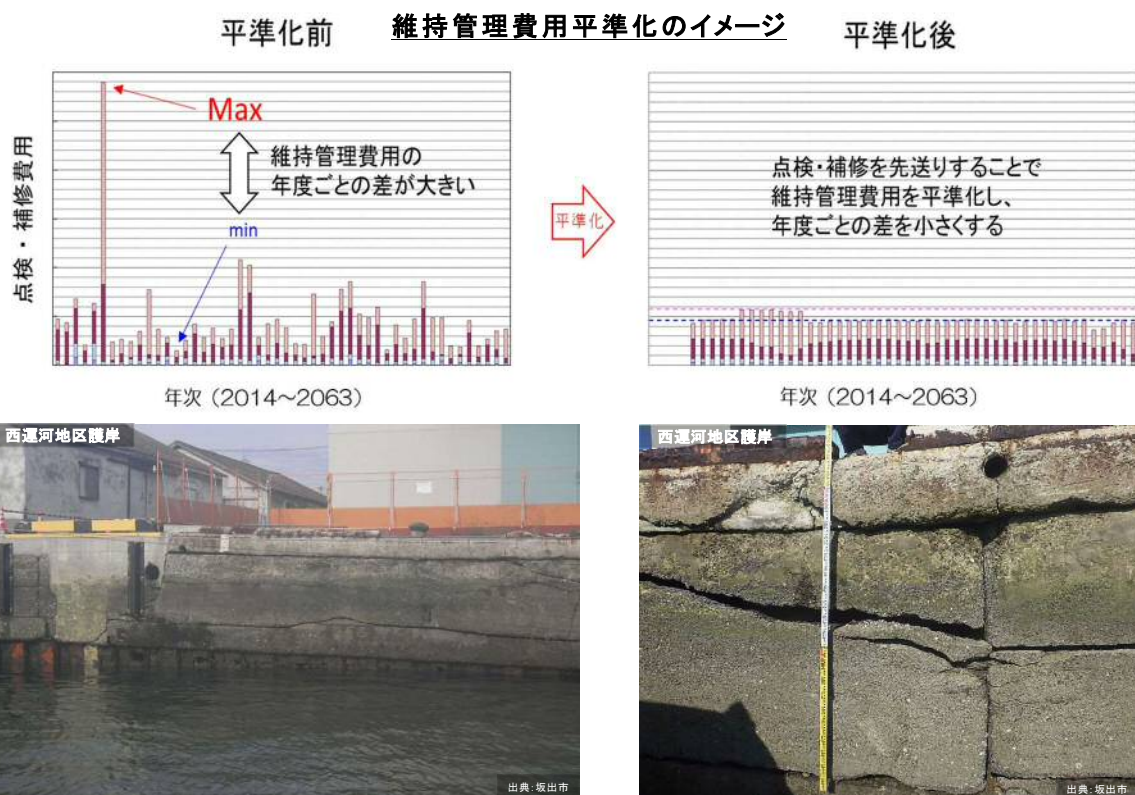
社会経済活動の基盤であるインフラについては、高度成長期に整備したものが一斉に老朽化することが見込まれており、計画的な維持管理・更新による財政負担の軽減や平準化を図りつつ、安全・安心に利用できるよう維持していくことが求められています。

厳しい財政状況の中、社会インフラを継続して維持・管理するため、「計画的な点検、補修の実施」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)  
 (2) スtockマネジメントの推進  
 1) 施設の老朽化対策

①-1. 予防保全計画に基づく計画的な点検、補修、工事の実施(実施中)

- 維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減と予算の平準化を図るため、計画的な点検、補修、修繕の実施に取り組みます。



9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう



11 住み続けられる  
まちづくりを



② 施設の廃止・利用転換

将来計画との整合性も図りつつ、施設の老朽化や利用状況、社会情勢の変化を踏まえ、必要性が乏しくなったインフラの廃止・集約・再編を行うことで、時代に合ったインフラストックの適正化を進め、将来の維持管理・更新費用を抑制することが求められています。

インフラストック適正化に向けて、「施設の廃止・利用転換」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)
- (2) ストックマネジメントの推進
  - 1) 港湾施設の老朽化対策

②-1. インフラストックの適正化に向けた施設の廃止・集約・再編

- インフラストックの適正化のため、老朽化や利用状況に応じた施設の廃止・集約・再編に取り組みます。

老朽化や利用状況等に応じた施設の廃止・集約・再編（事例）



## (4) 実現に向けた取組みのスケジュール

実現に向けた取組みの内容		スケジュール		
		短期(5年)	中期(15年)	長期(30年)
物流・産業	<b>I. 陸上交通網を活かした貨物の集荷と海上輸送手段の確保</b>			
	<b>① 定期RORO船航路の維持、拡充</b>			
	①-1.定期RORO船を利用する新たな荷主等の掘り起こし(実施中)	→		
	<b>II. 浚渫土砂等の海面処分場と産業用地の確保</b>			
	<b>① 海面処分場の設置と産業用地の確保</b>			
	①-1.中期的な海面処分場の設置と産業用地の確保	→		
	①-2.産業用地に対する交通機能強化(実施中)	■ ■ ■		
	<b>III. 物流・生産・エネルギー拠点としての港湾機能の強化と再編</b>			
	<b>① 大型船に対応した新たな大水深岸壁の確保とふ頭の再編</b>			
	①-1.大水深岸壁の整備(埋立後)	→		
①-2.ふ頭の再編(大水深岸壁整備後)	→			
<b>② 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化</b>				
②-1.国や企業との連携によるエネルギー施策の促進	→			

実現に向けた取組みの内容		スケジュール		
		短期(5年)	中期(15年)	長期(30年)
交流・賑わい	<b>IV. みなとを活かした賑わい・交流拠点の創出</b>			
	<b>① 西運河地区の賑わい創出</b>			
	①-1.既存施設の活用	→		
	①-2.既存岸壁でのクルーズ客船の受入れ(ふ頭再編後)	→		
	<b>② MaaSによるスムーズな瀬戸内船旅の実現</b>			
	②-1.「MaaS」によるサービスの一元化と「DX」による業務の改善	→		
②-2.MaaSアプリによるデータ活用基盤の構築とサービス改善	→			

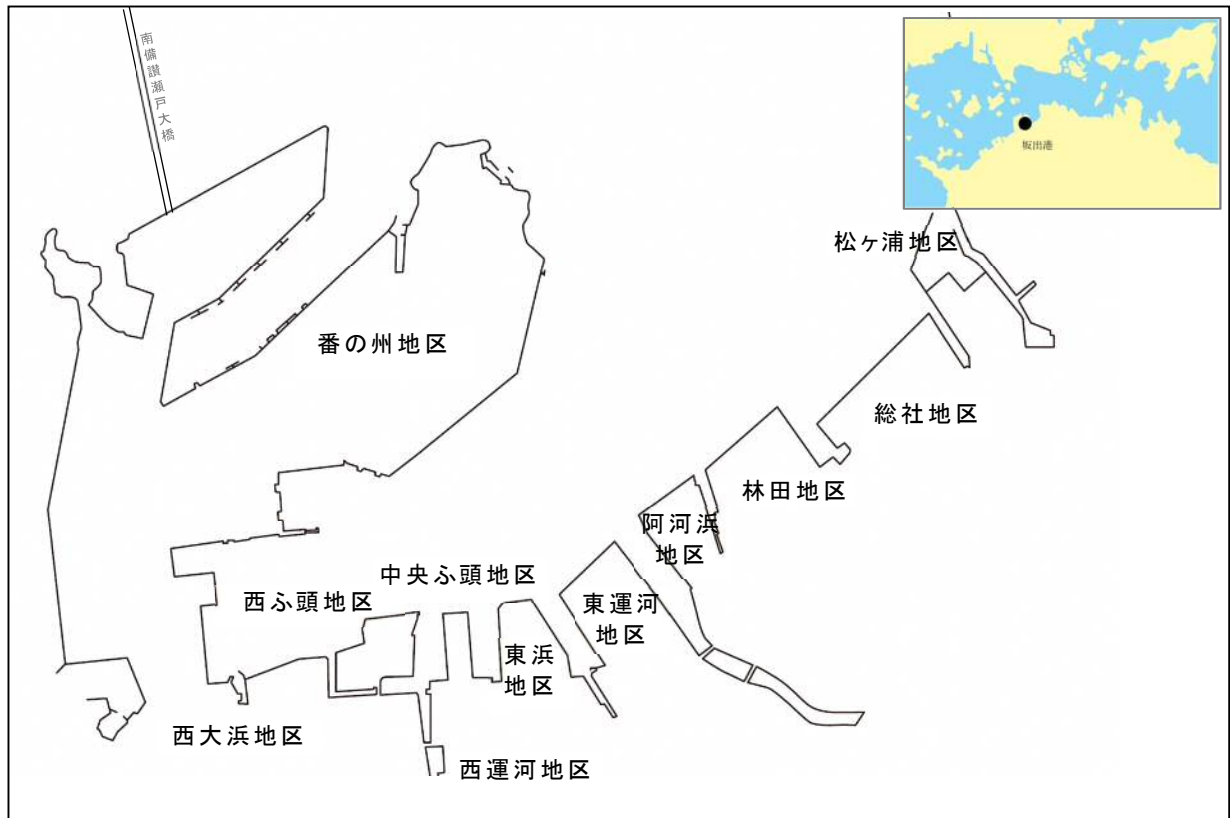
実現に向けた取組みの内容		スケジュール		
		短期(5年)	中期(15年)	長期(30年)
安全・安心	<b>V. 大規模地震・津波等への対応力強化と安全・安心の確保</b>			
	<b>① 計画的な地震・津波対策等の実施</b>			
	①-1.香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画の推進(実施中)	→		
	<b>② 坂出港BCPの充実</b>			
	②-1.坂出港BCPの充実	→		
	<b>VI. ストックマネジメントの推進</b>			
	<b>① 計画的な点検・補修の実施</b>			
①-1.予防保全計画に基づく計画的な点検・補修、工事の実施(実施中)	→			
<b>② 施設の廃止・利用転換</b>				
②-1.インフラストックの適正化に向けた施設の廃止・集約・再編	→			

(5) 実現に向けた取組みとSDGsの17ゴールの相関表

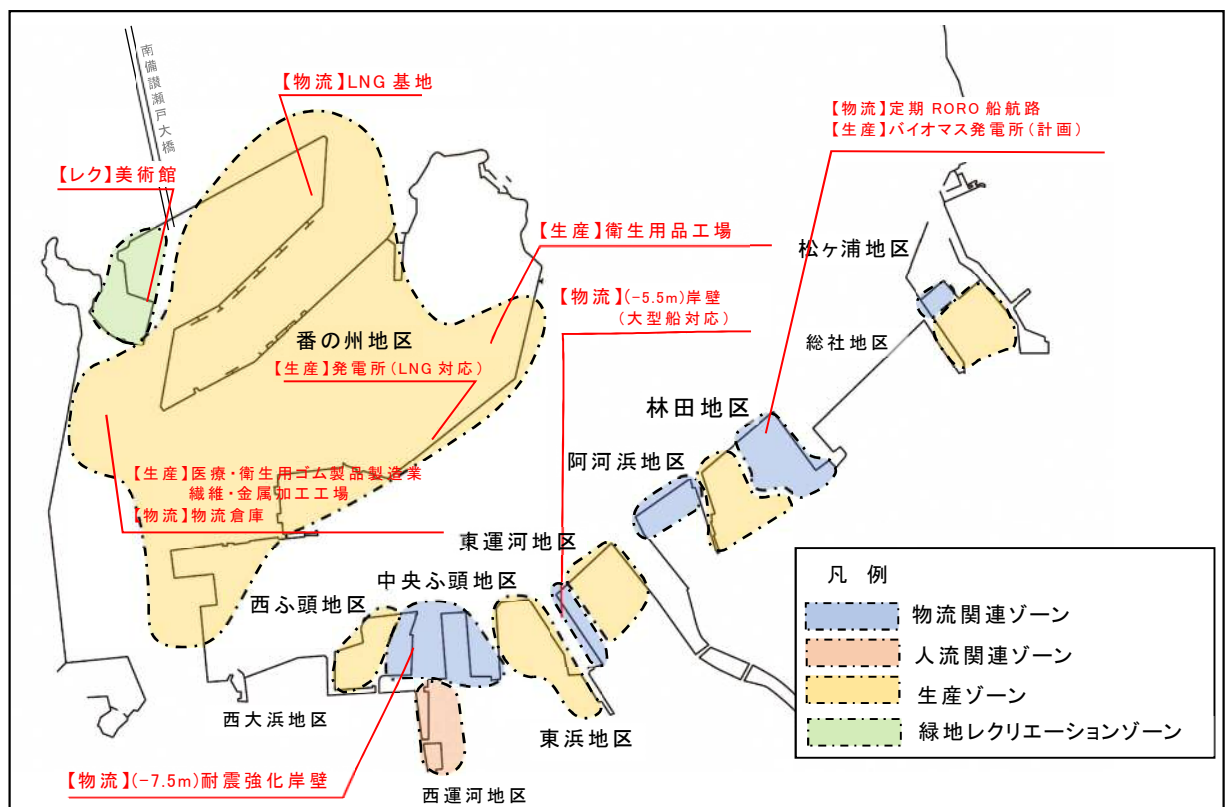
3つの柱	目指すべき方向性	SDGsの17ゴール 実現に向けた取組み	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
			貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう
																			
【物流・産業】	I	① 定期RORO船就航の維持、拡充									○	○		○	○				
	II	① 海面処分場の設置と産業用地の確保									○	○		○	○				
	III	① 大型船に対応した新たな大水深岸壁の確保とふ頭の再編									○	○		○	○				
② 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化									○	○	○		○	○		○			
【交流・賑わい】	IV	① 西運河地区の賑わい創出								○	○		○						
		② MaaSによるスムーズな瀬戸内船旅の実現								○	○		○						
【安全・安心】	V	① 計画的な地震・津波対策等の実施									○		○	○	○				
		② 坂出港BCPの充実									○		○	○	○				
	VI	① 計画的な点検・補修の実施									○		○						
		② 施設の廃止・利用転換									○		○						

## 7.5 空間利用計画

### (1) 位置図



### (2) 平成9年改訂時の港湾利用ゾーニングと整備した主な港湾施設



(3) 港湾利用ゾーニング

平成9年改訂時の港湾計画をベースに、改訂以降整備した主な港湾施設と当該長期構想での実現に向けた取組みの位置から、港湾利用ゾーニングを次のとおり設定します。

